

研究ノート

保健体育授業におけるオリンピック教育の実践例 —オリンピックの教育力と国際友情—

松井 賢一（東京都立青山高等学校保健体育科指導教諭 日本体育大学旧教職教育研究室非常勤講師）¹

1. はじめに

東京都立青山高等学校¹⁾は新国立競技場²⁾から最も近い公立高校である(写真1)。本文では以下、本校とする。

本校は、東京オリンピック・パラリンピック教育推進校³⁾の一つとしてJICA⁴⁾やブラジル大使館⁵⁾との国際理解教育や地域小学校と連携してオリンピックポスター掲示等を積極的に行い、2021年2月現在も継続している(写真2)。

東京2020大会は延期となったが本来なら期間中、校舎は大会ボランティアの待機施設、グラウンドは警察車両等の駐車場として使用する日程が組まれていた。学校施設構内は立ち入り禁止となり、夏期講習や部活指導等の教育活動は他校の施設を間借りして行う計画であった。一般的には知られていないかもしれないが、新国立競技場オー



写真1 都立青山高等学校から見た新国立競技場
(2020.9.26)



写真2 地域小学校と連携したオリンピックポスター
(2020.9.28)

ブニングを盛り上げるイベントに本校の1年生280名と部活動単位の2年生が高校生の代表として2019年12月21日の午前9時頃から午後23時頃まで参加するという取組もあった。

筆者は2014年からの7年間、同校において保健体育科の授業等でオリンピック教育を展開してきた。新型コロナウイルスのパンデミックで東京オリンピックは延期となったが、メイン会場の国立競技場に一番近く、特別な関わりを持つ公立高校のオリンピック教育実践例を紹介することは今後のオリンピック発展等につながると考え本論を作成した。

2. 東京オリンピックの象徴

筆者は、前回の東京オリンピックのシンボルとして親しまれてきた旧国立競技場⁶⁾の解体と新国

¹ 都立青山高等学校在職13年、日本体育大学旧教職教育研究室非常勤講師1年



写真3 旧国立競技場周辺の樹木は伐採された
(2015.1.11)



写真4 解体工事中の旧国立競技場(2015.3.20)



写真5 新国立競技場建設(2017.6.2)



写真6 新国立競技場建設(2018.1.22)

立競技場建設を教材活用資料として継続的に写真撮影してきた。その中で特に印象的な写真を日付順に並べて社会問題となった事例を考察する。

1964年に開催された前回の東京オリンピック以降、旧国立競技場の周辺は様々な木々が大きく育ち、夏にはおびただしい数のセミが鳴く自然豊かな公園となっていた。問題点の一つとして、そ

の既存樹木伐採と移植計画があげられる⁷⁾。新国立競技場建設が始まると、正面入り口や青山門付近の大木が切り倒され、積み重ねて置かれた(写真3)。

旧国立競技場は、その周辺施設⁸⁾とともに多くの人々から親しまれてきたので取り壊し開始⁹⁾を反対する声が多々あった。新国立競技場建設には、当初の建築案¹⁰⁾が覆され、2回目案の完成¹¹⁾に至った経緯が記憶に新しい(写真4, 5, 6)。

3. 体育授業とオリンピック

本校では、長距離走授業とマラソン大会¹²⁾を組み合わせた取組を20年以上継続してきた。神宮絵画館前周回コースを使用した独自の実践である(写真7)。

筆者は、長距離走が健康や体力向上に深く関わることを、国立競技場を見ることが出来るコースを授業で走る全国唯一の高校であることを積極的に伝えてきた。それは生徒のモチベーションを高めるだけでなく、新学習指導要領¹³⁾の目標「主体的・対話的で深い学び」を意識した取組でもある。これを現在の神宮記録会に繋げている(写真8)。



写真7 授業風景(2019.1.28)



写真8 現在の神宮記録会(2020.2.19)

神宮絵画館前を周回する一般歩道コース（約1 km）は多くの市民ランナーやプロ野球選手、アスリートランナーが現在も使用している。最近では盲人ランナーのトレーニングや民間ランニング教室と重なることも増えてきた。更に東京オリンピックサブトラックの設置建設工事¹⁴⁾により、2019年度の授業はトラブル防止の配慮が例年以上に必要であった。これまでは明治神宮外苑職員等の厚意に支えられながら本校の長距離走授業は成り立ってきたが、年々使用が難しくなっている。

2019年の12月以降、新国立競技場周辺を散策する外国人が増えた。長距離走の授業前に行うラジオ体操と準備運動を興味深く観察する姿が多くなり、日本の体育教育やスポーツ文化が注目されていることを感じている（写真9）。

2015年以前は、旧国立競技場の聖火台を長距離走授業の集合場所から見る事ができた。1964年と2020年の東京オリンピックを考える上で、新旧の国立競技場の存在は大きい。



写真9 ラジオ体操と準備運動の様子

4. 保健授業とオリンピック

保健授業においては、東京オリンピック開催に向けた生徒の「意欲・関心・態度」を高める工夫として、次の2点を2014年から7年間継続して指導している。

1. 東京オリンピック・パラリンピックのシンボルフラッグを毎時間黒板に掲揚した（写真10）
2. 調べ学習発表後に行うオリンピックフラッグへのサイン（写真11）

本校生徒の多くは、新国立競技場や日本青年館、ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア¹⁵⁾等の東京オリンピック関連施設建設が急ピッチで行われている姿を直接見てきた。保健授業においても、東京オリンピック・パラリンピックを題材としたこれまでの取組によって教育効果を概ね達成できている。



写真10 保健の授業とオリンピックフラッグ



写真11 オリンピックフラッグへのサイン

5. 国際交流とオリンピック

筆者は2016年から2019年までの4年間、東京オリンピックがどれくらい認識されているのかを知るためにスペインとシンガポールにシンボルフラッグを携帯して数回訪問し、地域住民と交流した。

個人的な取組ではあったものの、東京オリンピックフラッグにサインを拒否する人は皆無であり、接した全ての人が積極的に協力してくれた（写真12）。

オリンピックには人々を引き付ける不思議な「力と友情」があることを実感した。そして、この取組を国際理解教育の研究事例として映像を交えて生徒に伝えた。

グローバルが進む現代において、外国人を受け入れ交流したいと望む日本人は増えている。全国の教育現場でも2020年東京オリンピックの開催に向けた様々なプログラムが報告されている。



写真12 オリンピックフラッグにサインするスペインとシンガポールの人々

6. まとめ

今年度、本校では東京都の新型コロナウイルス感染予防対策のため、体育の実技授業を行わない期間¹⁶⁾を設けた。そして、全学年に「体育実技」の課題プリントを9時間分作成して自宅学習期間中に自学自習させた。



写真13 「オリンピックと国際理解」授業資料

2020年5月16日の3年生への課題とした「東京オリンピックの開催についてあなたの考えを記述して下さい」の回答から、3年生8クラス313名の考えが分析できた(写真13)(表1)。

生徒による課題回答からは、「東京オリンピックを延期して開催賛成」が最も多く、経済活動・

表1 「東京オリンピックの開催についてあなたの考えを記述して下さい」の回答
有効回答数313人(複数回答あり)

回答分析結果	全体 313人	男子 163人	女子 150人
延期再開賛成	182	80	102
延期再開反対	36	17	19
延期再開熟考すべき	49	22	27
中止賛成	17	9	8
経済に関心	165	81	84
オリンピック理念	173	71	102
選手心配	103	51	62
テロ対策	9	6	3
政治との関連	17	9	8
復興支援すべき	3	2	1
関心ない	3	2	1

状況に関心が高いことも読み取れる。また、「オリンピック理念として世界平和とオリンピックの関連を重視」することや「選手のコンディション維持や参加」を心配する意見が多かった。さらに、「延期再開は熟考すべきである」「延期再開反対である」「中止賛成である」という意見も多かった。

2度目の緊急事態宣言が2021年1月8日、関東4都県に発令され3月7日まで延長された。現在も日本国内だけでなく世界的規模でパンデミックが続いている。

本校では「長距離走」における飛沫感染に不安を感じている生徒が多いことがアンケート結果から分かり、全員マスクを着用して個人種目の「バドミントンシングル」と「縄跳び」を2021年の2月19日現在も実践している。保健においては、対面式授業とオンライン授業を並行しながらオリンピック教育を継続して行っている。

本論が、今後のオリンピックだけでなく日本や世界のスポーツと保健体育教育発展の一助となれば幸いである。

注

1) 都立青山高等学校 東京都渋谷区神宮前2-

- 1-8 1940年開校
東京都の進学重点校 全校生徒 876名（男子 455人・女子 421人 2021年2月19日現在）
- 2) 新国立競技場所在地 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
- 3) 東京都教育庁は3月5日、平成27年度オリンピック・パラリンピック教育推進校を発表した。指定校は前年度300校から600校に拡充され、2020年東京オリンピックの開催に向けて、教育実践の研究開発を行っている。推進校は都内の公立学校を対象としており、東京大会までの間、さまざまなオリンピック・パラリンピック教育を展開していくために、その教育実践の研究開発を行う。平成27年度の推進校は、幼稚園7園、小学校397校、中学校149校、高等学校38校、特別支援学校9校、合計600校を指定。教育庁の平成27年度主要施策に「オリンピック・パラリンピック教育の推進」を掲げており、前年度の300校から600校に拡充するとしていた。
- 4) 独立行政法人国際協力機構(JICA/ジャイカ) Japan International Cooperation Agency の略称 日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている。
- 5) 駐日ブラジル大使館所在地 〒107-8633 東京都港区北青山2-11-12
- 6) 旧国立競技場(国立霞ヶ丘陸上競技場)は1958年(昭和33年)に開場。老朽化対応と、東京オリンピック・パラリンピックの主会場とすることを念頭に全面改築された。
- 7) 2015年9月1日発表のJSC「業務要求水準書参考資料」には、現存樹木と移植樹木のリストが含まれた。日本学術会議によると、周辺の樹木建設地の既存樹木は、1,545本が伐採、219本が移植される予定とされた。
- 8) 都立明治公園(新宿区、渋谷区)や日本青年館が隣接していた。三代目日本青年館は2017年(平成29年)8月1日にグランドオープンした。建物は地上16階・地下2階、建物高さは70mとなり、総客室数220室のホテルや1,250席のホールなどを備えている。
- 9) 入札の不調などから、2014年夏に予定されていた解体が遅れていたが、2015年3月3日から国立競技場の解体が始まった。1958年の竣工から57年。歴史の幕を閉じた。
- 10) 2012年(平成24年)11月15日 イギリスのザハ・ハディド(Zaha Hadid)の作品が最優秀賞に決定した。
- 11) 建築家・隈研吾が率いる隈研吾建築都市設計事務所と大成建設、梓設計のチームによる共同企業体が設計・工事管理に参画し、地上5階、地下2階、高さ47.4メートルのスタジアムに約6万席を設ける。
- 12) 現在は神宮球場を使用した「神宮記録会」を行っている。2020年度大会(2021年2月18日)は感染拡大防止のため、開閉会式だけとした。
- 13) 高等学校新学習指導要領 文部科学省では、平成30年3月30日に学校教育法施行規則の一部改正と高等学校学習指導要領の改訂を行った。新高等学校学習指導要領等は平成34年度(令和4年)から年次進行で実施することとし、平成31年度から一部を移行措置として先行して実施する。
- 14) サブトラック オリンピック・パラリンピック期間中は、聖徳記念絵画館近くの軟式野球場に仮設のサブトラックを設置して対応する。
- 15) ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア所在地 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-8 日本スポーツ協会(JSPO)と日本オリンピック委員会(JOC)の本部ビル 2019年5月16日開館
- 16) 本校では、2020年3月2日(月)から自宅待機。6月1日(月)から6月27日(土)までクラスを2つに分け3週間分散登校、6月29日(月)から体育実技授業開始した。2021年2月現在、

全員マスク着用で個人種目を行っている。

(受理日：2021年2月15日)